

# 史 跡 斎 宮 跡

平成19年度現状変更緊急発掘調査報告

平成21(2009)年1月

明 和 町

## 序

平成20年度は、町にとって節目となる記念の年であります。1つは平成20年9月3日に町政施行50周年を迎えました。もうひとつは、2ヵ月後の本年3月27日に斎宮跡が「古代・中世における国家と祭祀の関係、斎宮を中心とする産業文化解明の上で重要な遺跡」として国史跡に指定されてから30周年を迎えることです。

この30年間、発掘調査では、奈良古道、方格地割、内院、八脚門の発見など斎宮解明に多くの成果を得ることができました。また、保存のために町が行っている土地の買上げも地元地権者の協力を得て35.6haに達しました。しかし、137.1haに及ぶ広大な斎宮の全貌を明らかにするにはまだまだ長い年月を要します。

また、発掘調査の成果を元に公有化の進んだ地区から隨時史跡整備が進められており、現在16.7haが完了しています。さらに、平成25年の伊勢神宮遷宮に合わせて県においては中院想定地の実物大復元等史跡東部の整備に向けて検討していただいているところであります、町としてもその整備計画を含め史跡全体をどのように活用するか、地元の意見も取り入れ再検討しているところであります。

このように保護・保存のため土地の公有化、発掘調査、史跡整備を積極的におこなう一方、史跡地内には約600世帯に及ぶ住民が生活していることもあり、生活に結びつく現状変更等許可申請が数多く提出されます。

この報告書は、平成18年度～19年度に提出された現状変更等許可申請の中で平成19年度に事前発掘調査が実施された9件の結果についてまとめたものです。

現状変更に伴う調査は、比較的まとまったものや、浄化槽のような非常に小さなものなど規模は様々です。また、調査場所は広い史跡内を点在しており、計画調査では得られない貴重な成果を与えてくれるもので、その積み重ねが斎宮跡を解き明かすものと思っています。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者のみなさま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた斎宮歴史博物館調査研究課の方々に対してここに厚くお礼申し上げます。

平成21（2009）年1月

三重県多気郡明和町

町長 中井幸充

## 例　　言

- 1 本書は、平成19（2007）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地内）の現状変更緊急発掘調査結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査のうち、第155－7次調査は公共事業として事業者（明和町）が費用負担したが、それ以外については国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。
- 3 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館調査研究課及び明和町斎宮跡課が現地調査を担当した。
- 4 調査地区名の表示方法（例：6 A L 8）については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』（斎宮歴史博物館 2003年）による。
- 5 遺構の平面図は、過年度の調査成果との整合を図るため、測地成果2000施行以前の国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表現している。
- 6 遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告』I（斎宮歴史博物館 2001年）を基準とした。
- 7 遺構冒頭の略記号は見た目の形態から以下のように表記した。  
S B：掘立柱建物 SH：竪穴住居 SD：溝 SK：土坑 P i t : 柱穴
- 8 遺物の実測図は、実物の4分の1に縮小しての表示を基本としている。
- 9 図面・写真等の調査資料類は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 10 本書の執筆は、水橋公恵・倉田直純（斎宮歴史博物館 調査研究課）および中野敦夫（明和町 斎宮跡課）が分担し、編集は、倉田・中野が担当した。なお、文責は文末に示した。

## 目 次

I	前 言 .....	1
II	調査報告	
1	第155-1次調査 .....	2
2	第155-2次調査 .....	3
3	第155-3次調査 .....	3
4	第155-4次調査 .....	4
5	第155-5次調査 .....	4
6	第155-6次調査 .....	6
7	第155-7次調査 .....	6
8	第155-8次調査 .....	6
9	第155-9次調査 .....	7
10	第155-10次調査 .....	7
11	第155-11次調査 .....	10
12	第155-12次調査 .....	10
付編	史跡現状変更等許可申請 .....	13

## 表・挿図目次

[表]

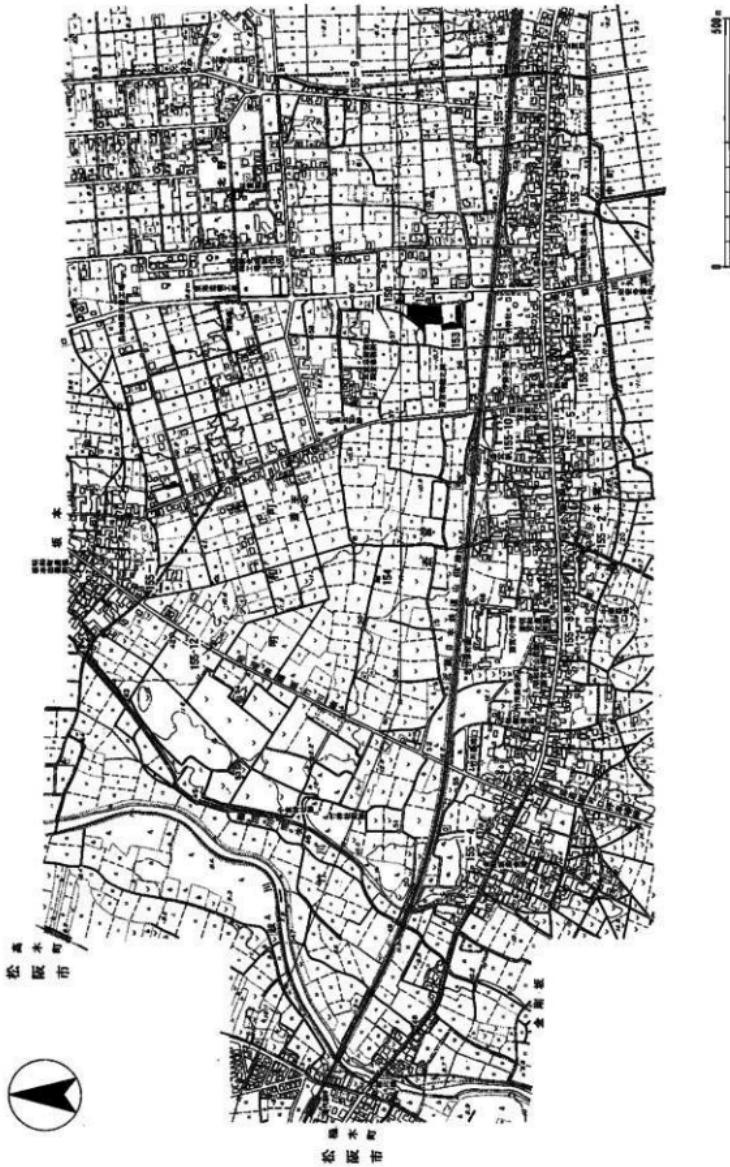
1	史跡現状変更等許可申請の推移	4 第155-1・5・10次調査 出土遺物一覧
2	第155-1・2・5・8・10次調査 検出遺構一覧	5 第155次調査 特殊遺物一覧
3	第155-10次調査 挖立柱建物一覧	6 平成19年度 現状変更等許可申請一覧

[図]

1	発掘調査地区位置図 (1:10,000)	14 第155-5次調査 東壁土層断面図 (1:100)
2	第155-1次 調査区位置図 (1:2,000)	15 第155-5次調査 出土遺物実測図 (1:4)
3	第155-1次調査 遺構平面図 (1:200)	16 第155-6次 調査区位置図 (1:2,000)
4	第155-1次調査 土層断面図 (1:100)	17 遺構平面図 (1:200)・土層断面図 (1:100)
5	第155-1次調査 S H9645出土遺物実測図 (1:4)	18 第155-7次 調査区位置図 (1:2,000)
6	第155-2次 調査区位置図 (1:2,000)	19 第155-8次 調査区位置図 (1:2,000)
7	第155-2次調査 遺構平面図 (1:200)・土層断面図 (1:100)	20 遺構平面図 (1:200)・土層断面図 (1:100)
8	第155-3次 調査区位置図 (1:2,000)	21 第155-9次 調査区位置図 (1:2,000)
9	第155-3次調査 遺構平面図 (1:200)・土層断面図 (1:100)	22 遺構平面図 (1:200)
10	第155-4次 調査区位置図 (1:2,000)	23 第155-10次 調査区位置図 (1:2,000)
11	第155-4次調査 遺構平面図 (1:200)・土層断面図 (1:100)	24 遺構平面図 (1:200)
12	第155-5次 調査区位置図 (1:2,000)	25 第155-10次調査 東壁土層断面図 (1:100)
13	第155-5次調査 遺構平面図 (1:200)・溝 S D9652 平面・断面図 (1:40)	26 第155-10次調査 出土遺物実測図 (1:4)
		27 第155-11次 調査区位置図 (1:2,000)
		28 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)
		29 第155-12次 調査区位置図 (1:2,000)
		30 遺構平面図 (1:200)

## 写真図版

1	第155-1次調査 上: Aトレント全景 (南から)	下: Aトレント S H9645 (南から)
2	第155-1・2次調査 上: Bトレント全景 (西から)	下: 2次調査全景 (南から)
3	第155-3・4次調査 上: 3次調査全景 (南西から)	下: 4次調査全景 (南西から)
4	第155-5次調査 上: 5次調査全景 (北から)	下: S D9652遺物出土状況 (南から)
5	第155-6・8次調査 上: 6次調査全景 (北西から)	下: 8次調査全景 (北西から)
6	第155-10次調査 上: 10次調査全景 (南から)	下: 土坑群 S K9656~9660 (北から)
7	第155-10次調査 上: 挖立柱建物群 S B9664・9666・9667 (南から) 下: S B9664 (南西から)	
8	第155-10・11次調査 上: S K9657 (南西から)	下: 11次調査全景 (北西から)



第1図 免振調査地区位置図 (1:10,000)

## I 前 言

斎宮跡では、史跡指定を受けた昭和54年から平成19年度までの29年間、毎年40件程度の現状変更等許可申請が出されている。平成19年度は50件の申請があり、そのうち学術調査目的は4件であった。それ以外は、下水道管敷設や個人住宅・共同住宅の新築、駐車場造成などに伴う申請である。

平成19年度に学術調査以外で発掘調査を実施したのは、前年度に申請のあった第155-3・6・7次調査を含めて12件、のべ373.8m<sup>2</sup>である。そのうち、最も調査面積が広かったのは、明和町による下水道管敷設にともなって実施したものである。史跡指定地内での工事は、平成16年度から開始され、過去4年間の間に本管・マンホール開削工部分総延長3,218.9m、計2,793.6m<sup>2</sup>に及ぶ調査を行ってきた。このほか、調査面積は小さいが宅内公共構造工事に伴う調査や推進工部分（6箇所）の調査も行なっている。また、付随して行われる上水道管移設や各戸宅内配管工事に伴う立会調査は、数字としては表れないが相当数にのぼる。これらの報告については、一連の事業が終了した後にまとめて行う予定である。

その他に、住宅新築、駐車場造成、浄化槽・公共構造工事に伴う事前調査を実施した。史跡指定地内については、基本的に過去の調査事例を参照して、極力遺構を壊さず施工するように指導がなされているが、浄化槽の埋設に際しては、工事が構造面にまで及んでしまう事例が少くない。こうした工事に伴う調査は、学術調査がほとんど実施されていない住宅密集地域での調査となることが多いため、面積的にはごく限られたものではあるが、斎宮の全容を解明する上で、その情報は極めて重要である。（水橋公恵）

年度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積 (m <sup>2</sup> )	うち補助金調査件数	同調査面積 (m <sup>2</sup> )
S54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
H元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	45	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	12	1,021	8	323
19	50	12	374	11	270
計	1,269	333	60,569	196	23,623

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

## II 調査報告

### 1 第155-1次調査 (6 AL 5)

調査場所 多気郡明和町斎宮字出在家3258-1

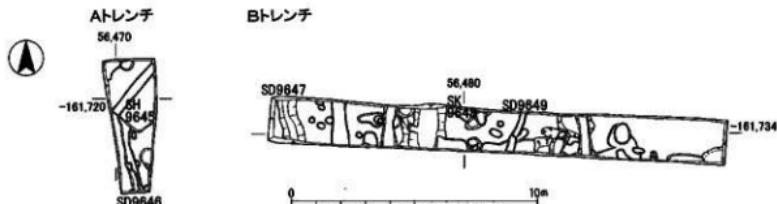
原因 住宅建築

調査期間 平成19年6月5日～7日

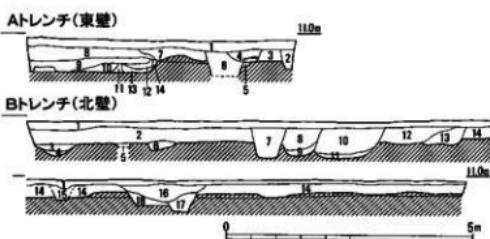
調査面積 41.3m<sup>2</sup>

調査概況 調査地は、斎宮歴史博物館から北東200mの畠地で、史跡範囲の北西部にあたる。周辺では、第43-1次調査、第96-3次調査が実施されている。現地表面の標高は約10.9m。構造検出面は、標高約10.5～10.6mで確認された黄橙色粘土質の上面である。遺構と遺物 竪穴住居1棟、溝・土坑などが検出され、コンテナケース約2箱分の遺物が出土した。

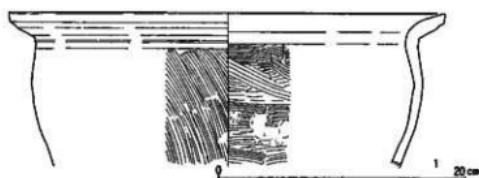
竪穴住居SH9645は、2.5以上×2.5mの方形で、南東壁付近に焼土・炭・粘土塊の分布が認められたことから、窓を有していたものと考えられる。方位はN-47°-W。出土遺物としては、土師器(杯・甕)・須恵器片がコンテナケースに1箱分ある。遺物の量がごく少ないため、断定は避けておきたいが、斎宮土器編年(斎宮歴史博物館2001)の第I期に相当する土器が出土しているので、飛鳥・奈良時代のものである可能性が高いといえよう。(水橋公恵)



第3図 第155-1次調査 遺構平面図 (1:200)



第4図 第155-1次調査 土層平面図 (1:100)



第5図 第155-1次調査 竪穴住居SH9645出土遺物実測図 (1:4)

Aトレンチ	
1 表土・耕作土	8 黒褐土 10Y R2/2
2 黒褐土 10Y R2/3	9 黒褐土 10Y R2/2
3 黒褐土 10Y R3/2	10 黄褐土 10Y R4/3
4 反灰褐土 10Y R4/2	11 棕褐色 10Y R4/4
5 暗褐土 10Y R3/4	12 暗褐土 10Y R3/3
6 黑褐土 10Y R2/3	13 暗褐土 10Y R3/4
7 黑褐土 10Y R2/3	14 暗褐土 10Y R3/4

Bトレンチ	
1 表土・耕作土	10 黑褐土 10Y R2/2
2 黑褐土 10Y R2/2	11 黑褐土 10Y R3/2
3 黑褐土 10Y R2/2	12 暗褐土 10Y R3/3
4 黑褐土 10Y R2/3	13 暗褐土 10Y R3/4
5 暗褐土 10Y R3/4	14 黑褐土 10Y R3/2
6 黑褐土 10Y R3/2	15 黑褐土 10Y R2/2
7 黑褐土 10Y R3/2	16 黑褐土 10Y R2/3
8 黑褐土 10Y R2/2	17 黑褐土 10Y R3/2
9 黑褐土 10Y R3/2	18 黑褐土 10Y R2/3

## 2 第155-2次調査 (6 AM13)

調査場所 多気郡明和町斎宮字木葉山95-10

原 因 住宅建築

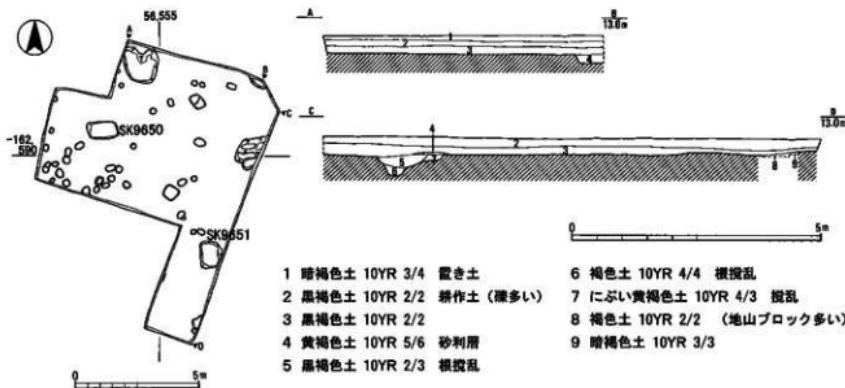
調査期間 平成19年6月5日～13日

調査面積 55.0m<sup>2</sup>

調査概況 調査地は、斎宮小学校から南東300mの畠地で、史跡範囲の北西部にあたる。現地表面の標高は約12.6m。遺構検出面は、標高約12.3mで確認されたにぶい黄褐色粘質土の上面である。

遺構と遺物 古代～中世の柱穴、時期不明の土坑2基を確認した。柱穴の中には掘立柱建物や塀の一部かと思われるものもあるが、調査区が狭いため、現時点では間取りを復元するに至っていない。SK9650・9651は、長辺0.6m前後×短辺0.3～0.4mの平面長方形を呈する土坑で、埋土は黒褐色土である。

出土遺物としては、土師器(杯・皿・高杯・甕)・須恵器(甕)・山茶碗などがコンテナケースに1箱分である。(水橋公恵)



第7図 第155-2次調査 遺構平面図 (1:200)・土層断面図 (1:100)

## 3 第155-3次調査 (6 AT13)

調査場所 明和町斎宮字中西599-1, -2

原 因 個人住宅改築

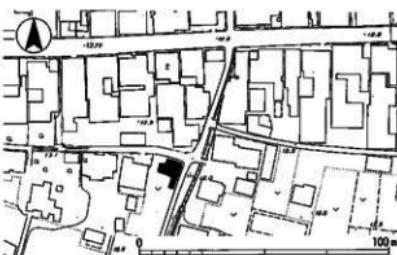
調査期間 平成19年6月1日

調査面積 3.6m<sup>2</sup>

調査概況 調査地は、旧参宮街道沿いの住宅地で、史跡範囲の南部にあたる。個人住宅改築工事に伴って、浄化槽埋設部分の調査を行った。現地表面の標高は約10.2m。現地表面から約80cmの深さで地山とみられる黄褐色土が検出されたが、遺物包含層は確認されなかった。

遺構と遺物 遺構・遺物ともに認められなかった。

(水橋公恵)



第8図 第155-3次 調査区位置図 (1:2,000)



第8図 第155-3次 調査区位置図 (1:2,000)



第9図 第155-3次調査 遺構平面図(1:200)・土層断面図(1:100)

#### 4 第155-4次調査 (6 AG12)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字中垣内460-2

原 因 浄化槽設置

調査期間 平成19年6月4日

調査面積 4.2m<sup>2</sup>

調査概況 調査地は、斎宮小学校より西約400mのところにある旧参宮街道沿いの住宅敷地内で、史跡範囲の南西部にあたる。標高約13.9mの現地表面より、1.7mの深さまで掘削を行ったが、地山には達しなかった。調査地点の基本層序は、上から順に、コンクリート・碎石・搅乱土である。

遺構と遺物 遺構・遺物ともに認められなかった。(水橋公恵)



第11図 第155-4次調査 遺構平面図(1:200)・土層断面図(1:100)

#### 5 第155-5次調査 (6 AO13)

調査場所 多気郡明和町斎宮字牛葉3021,3021-1

原 因 住宅建築

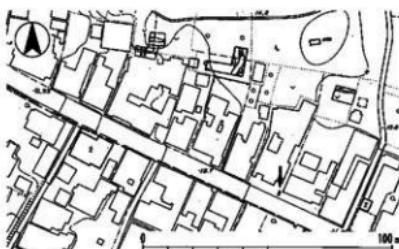
調査期間 平成19年6月24～7月3日

調査面積 34.5m<sup>2</sup>

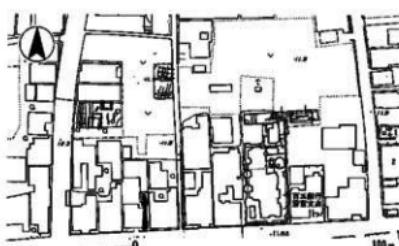
調査概況 調査地は、近鉄斎宮駅から南約100mのところに位置する空き地で、史跡範囲の中央から南寄りにあたる。現地表面の標高は約11.9m。遺構検出面は、標高約11.1mで確認されたにぶい黄褐色粘質土の上面で、その上には上から順に、碎石・表土・黒褐色土(置き土か)が堆積していた。

遺構と遺物 中世の溝1条、古代～中世の柵もしくは掘立柱建物の一部とみられる柱穴多数を確認した。

S D9652は、幅0.4～0.7m、長さ5.0mで、やまとまつた量の土師器(鍋・皿)のほか、陶器(灰釉陶器・いわゆる「山茶碗」)の小破片が出土した。土師器の皿(1～5、7～10)は口径11.5～12.2cmで、小皿(6)は口径8.2cmである。破片が小さ過ぎるために、陶器で時期を絞り込むことは難しいが、土師器の皿の近似性からみて、S B4810(第72次調査)とほぼ同時期かと思われる。S B4810からは、土師器皿に伴って陶器(いわゆる「山茶碗」)と青磁の小碗が出土しており、陶器には腰部にやや丸みを残している柾と、口縁部に非常にきつい面をもつが底部がやや小さめの小皿がある。陶器の碗・小皿は、藤澤良祐氏のいう「尾張型山茶碗」に属するもので、柾は氏の編年(藤澤1982・1994)の第6型式、



第10図 第155-4次 調査区位置図(1:2,000)

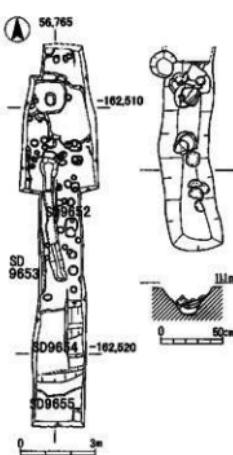


第12図 第155-5次 調査区位置図(1:2,000)

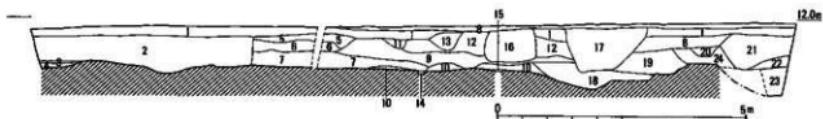
皿は第7型式に比定できるので、13世紀半ば～後半頃のものと考えられる。青磁の小椀は、大宰府出土中国陶磁分類（横田・森田1978）の龍泉窯系青磁I-1類に相当するもので、やはり13世紀頃の年代観が与えられている。

調査区内で多数検出された柱穴は、直径0.2～0.3mの平面円形もしくは一辺約0.4mの隅丸方形を呈するもので、いくつかは約1.8mの柱間間隔で一直線上に並んでいるようにも見える。しかし、平面形状が不揃いであることに加え、調査区が狭小で遺構の全体像を把握できないいため、現段階では遺構番号の付与を見送ることとした。柱穴埋土からは、古代の灰釉陶器や中世の施釉陶器（いわゆる「古瀬戸」）の小片が出土している。（水橋公恵）

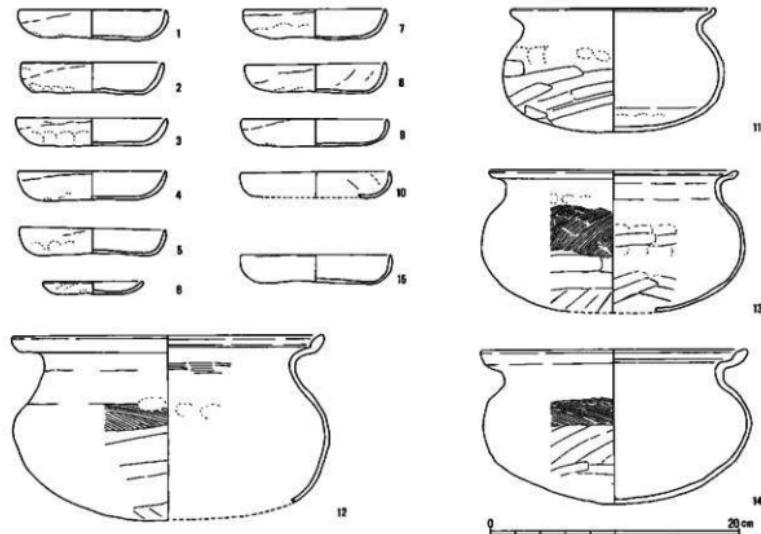
1 表土	9 黒褐色粘質土 7.5Y R3/1	17 黒褐色土 7.5Y R3/1
2 授乳、瓦混み	10 黒色土 7.5Y R2/1	18 黒色土 7.5Y R2/1粘性強
3 橙色土 7.5Y R7/6	11 黒褐色土 7.5Y R3/1	19 黒褐色土 7.5Y R3/2
4 黒褐色土 7.5Y R2/2	12 明褐色土 7.5Y R5/6	20 褐灰色土 7.5Y R4/1
5 暗褐色土 7.5Y R3/3	13 混泥入暗褐色土 7.5Y R3/1	21 黒褐色土 7.5Y R3/1
6 明赤褐色土 5Y R5/8	14 明褐色土 7.5Y R7/1	22 橙色土 7.5Y R6/8
7 黒褐色土 7.5Y R3/2	15 明褐色土 7.5Y R7/1	23 褐灰色土 10Y R4/1
8 砂利	16 授乳、混泥砂利層	24 黒色土 10Y R2/1



第13図 第155-5次調査  
遺構平面図 (1:200)  
溝SD9652平面・断面図 (1:40)



第14図 第155-5次調査 東壁土層断面図 (1:100)



第15図 第155-5次調査 出土遺物実測図 (溝SD9652: 1~14、SD9652北端PIT上層: 15) (1:4)

## 6 第155-6次調査（6AQ13）

調査場所 多気郡明和町斎宮字牛葉330-2

原 因 住宅建築

調査期間 平成19年6月28日

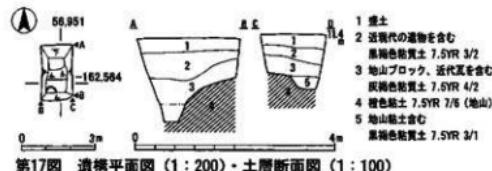
調査面積 2.9m<sup>2</sup>

調査概況 調査地は、竹神社の南西約120mに位置し、史跡南部の旧参宮街道沿いの住宅密集地内にある。住宅新築に伴い、合併浄化槽部分の調査を行った。施行時の地表面の標高は11.2mで、深さ80cmほどで地山の橙色粘土に達した。調査地点の基本層序は、上から順に、盛土・黒褐色粘質土・灰褐色粘質土である。

遺構と遺物 調査区内は近代以降の擾乱を受け、北半分は地表面から1.9mの深さまで達していた。南壁に接してピット状の遺構を確認したが、性格は不明である。出土遺物は少なく、少量の土師器小片等を除いて大半は近代以降の瓦である。（倉田直純）



第16図 第155-6次 調査区位置図 (1:2,000)



第17図 遺構平面図 (1:200)・土層断面図 (1:100)

## 7 第155-7次調査 (6AU11・V11・V12)

調査場所 多気郡明和町斎宮宮地内

原 因 下水道管敷設

調査期間 平成19年7月24日～11月21日

調査面積 104.3m<sup>2</sup>

調査概況 調査地は、史跡東部の近鉄線北側の道路および道路に面した宅地の一部である。町道敷地内における下水道管布設に伴う事前調査で、工事の工区としては25工区にあたる。推進工部分はその形状に合わせて2箇所に調査区を設定し、開削工部分については幅1.0m程度×長さ約82mのトレーニチ調査を実施した。また、併せて公共沟部分についても調査も行った。なお、この調査についての詳細は、後年に別途報告する予定であるので、本書では調査位置を示すにとどめた。（水橋公意）



第18図 第155-7次 調査区位置図 (1:2,000)

## 8 第155-8次調査 (6AK13)

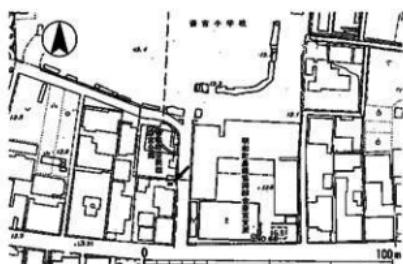
調査場所 多気郡明和町竹川字東裏262

原 因 浄化槽設置

調査期間 平成19年9月18日

調査面積 5.0m<sup>2</sup>

調査概況 調査地は、斎宮小学校から南へ約20mの住宅敷地内で、史跡の南西部にあたる。合併浄化槽の設置工事に伴う事前調査である。現地表面の標高は約13.2m。遺構検出面は、現地表面から約1.1mの深さで確認された灰白色粘質土の上面である。調査地点の基本層序は、上から順に、コンクリート・碎

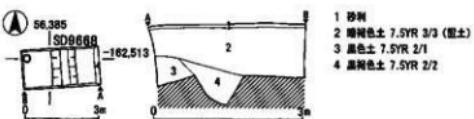


第19図 第155-8次 調査区位置図 (1:2,000)

石・置き土・灰白色粘質土である。

遺構と遺物 溝1条、柱穴1個を検出した。

溝S D 9668は、検出面での幅約1.0m、底面幅0.3m、検出面からの深さ0.6mの規模を有し、断面は逆台形を呈する。柱穴は直径約30cmの平面円形を呈し、検出面からの深さは15cmである。出土遺物がないため、遺構の時期は詳らかでないが、埋土の状態から見て古代以前に遡ることはないと思われる。(水橋公恵)



第20図 遺構平面図(1:200)・土層断面図(1:100)

## 9 第155-9次調査(6AO8)

調査場所 明和町斎宮字鍛冶山2436-8

原因 プレハブ設置

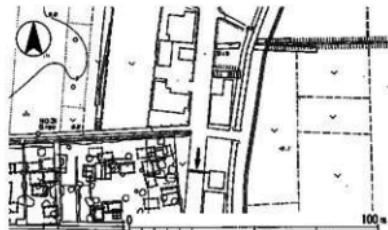
調査期間 平成19年9月27日～28日

調査面積 7.9m<sup>2</sup>

調査概況 調査地は、史跡範囲の北東部にある住宅地および道路内である。プレハブ建物設置工事に伴う調査だが、下水道支管敷設部分のみについて調査を行った。遺構検出面は、標高約9.2mの現地表面から約1.4mの深さで確認された黄褐色土の上面である。調査地点の基本層序は、上から順に、アスファルト・碎石と砂利、黒褐色粘質土・黄褐色土であった。

遺構と遺物 遺構・遺物ともに認められなかった。

(水橋公恵)



第21図 第155-9次 調査区位置図(1:2,000)



第22図 遺構平面図(1:200)

## 10 第155-10次調査(6AO12)

調査場所 多気郡明和町斎宮字内山3023

原因 駐車場造成

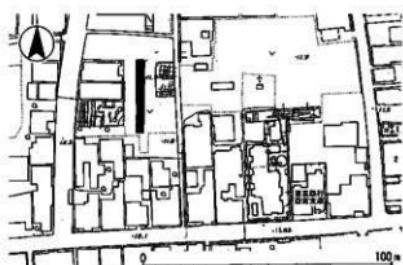
調査期間 平成19年10月5日～25日

調査面積 104.0m<sup>2</sup>

調査概況 調査地は、近鉄斎宮駅から南へ約100mのところに位置する空き地で、史跡範囲の中央南部にあたる。現地表面の標高は約11.7m。30cmほどの厚みをもつ表土を除去すると、その直下から地山とみられるにぶい黄褐色粘質土が現われたので、その上面で遺構検出を行なった。

遺構と遺物 古代の土坑多数・掘立柱建物4棟、近世の溝などが検出され、コンテナケースに10箱分の遺物が出土した。

SK9656 調査区北端で確認された土坑群の一つである。にぶい黄褐色粘質土上面で検出を試みた際には、切り合い関係が明確でなく、東西方向の溝と思われたが、北半の埋土が比較的均質な黒色土であったのに対して、南半の埋土には少なからず地山ブロックが含まれていたため、とりあえず南北で大きく二分割して掘削を開始した。ところが、埋土の掘削を進める過程で、実際には切り合い関係にある多数の土坑であることが判明したため、必要に応じて随時別の遺構番号(S K9657・9659・9660)を付与することとした。遺構の新旧は、切り合い関係から判断して、S K9658→S K9656→S K9657・9659・9660の順と考えられる。



第23図 第155-10次 調査区位置図(1:2,000)

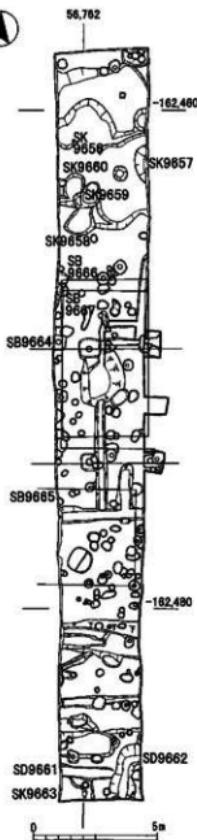
出土遺物としては、土師器（杯・皿・台付皿・高杯・長胴壺・小型壺・盤）・製塙土器・須恵器（杯B・杯蓋B・鉢・壺・甕）などがコンテナケース2箱分ある。ただし、埋土掘削前からSK9656に切られていることが判明していたSK9658を除くと、当初は全てをSK9656のものとして取り上げているため、本来はSK9657・9659・9660に属する遺物が少なからず混入していると思われる。土師器には、斎宮土器編年第I期第4段階もしくは第II期第1段階に比定される古いものから、第II期第3段階に位置づけられる新しいものまで、かなりの時期的混在が認められる。

**SK9657** SK9656埋土の掘削中に、調査区の東壁際で特徴的な遺物の集中が認められたため、精査した結果、SK9656を切る別の土坑であることが判明した。埋土は黒色土である。別遺構との認識が遅れたため、埋土上部に含まれていた遺物についてはSK9656の出土品として取り上げられているが、埋土下部に含まれていた遺物だけでも、土師器（杯・皿・長胴壺・小型壺）・須恵器杯蓋などが、コンテナケースに1/6箱分ほどある。土師器杯・皿は、底部にヘラ削りが施されるもので、皿の口縁は内側に丸く折り返されるものが多い。暗文が施されているものも散見される。

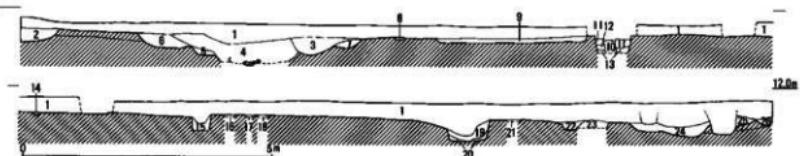
**SK9658** SK9656の南肩付近に位置する土坑で、切り合ひ関係からみてSK9656より古い。平面は、直径約1.0mの不整円形を呈し、検出面からの深さは30cmである。出土遺物としては、土師器（壺・皿）・須恵器（杯類・壺）などが、コンテナケースに1/6箱分ほどある。土師器皿（13）は口縁が外側に肥厚するタイプのもので、底部外面にはヘラケズリ調整が認められる。

**SK9659** SK9656埋土の掘削中に、SK9658の北側に隣接して特徴的な遺物の集中が認められたため、精査したところ、SK9656を切る別の中土坑であることが判明した。平面は、1.0×0.8mの楕円形を呈し、SK9656床面よりさらに約35cmほど深く掘り込まれている。出土遺物としては、土師器（壺・杯・皿）・製塙土器・須恵器（瓶類・壺）・灰釉陶器（皿）が、コンテナケースに1/3箱分ほどある。製塙土器の破片が、ややまとまって出土しており、注目される。

**SK9660** SK9656埋土の掘削中に、SK9659の西側に隣接して特徴的な



第24図 遺構平面図 (1:200)



1 表土	8 黒褐色土 10YR3/2	15 黒褐色土 10YR2/2	22 黒褐色土 10YR2/3
2 黒褐色土 10YR2/3	9 黒褐色土 10YR2/3	16 黒褐色土 10YR2/2	23 暗褐色土 10YR3/4
3 黒褐色土 10YR2/3	10 黒褐色土 10YR2/1	17 黒褐色土 10YR2/2	24 黒褐色土 10YR2/3
4 黒褐色土 10YR2/1	11 黒褐色土 10YR2/3	18 黒褐色土 10YR2/2	25 暗褐色土 10YR3/4
5 暗褐色土 7.5YR4/4	12 黒褐色土 10YR2/1 しまり良	19 暗褐色土 10YR3/3	26 黒褐色土 10YR2/3
6 黒褐色土 10YR2/2 粒粒多	13 黒褐色土 10YR2/3	20 青褐色土 5YR4/6	
7 黒褐色土 10YR2/2	14 黒褐色土 10YR2/3	21 黒褐色土 10YR2/2	

第25図 第155-10次調査 東壁土層断面図 (1:100)

遺物の集中が認められたため、精査したところ、SK9656を切る別の小土坑であることが判明した。平面は、 $1.0 \times 0.9\text{m}$ の楕円形を呈し、SK9656床面よりさらに約20cmほど深く掘り込まれている。出土遺物としては、土師器の小型丸底甌（16）が、ほぼ1個体分ある。

SK9663 調査区南西端で検出された不整形の土坑。東西1.0m以上×南北0.9m以上の平面規模を有し、検出面からの深さは15cmである。須恵器の無台杯（17）と土師器の小片1点が出土した。須恵器無台杯は、胎土の特徴から美濃須衛窯産とみられる。

SB9664 調査区中央部で確認された柱穴4個から推定される側柱の掘立柱建物。調査区内で梁側の柱穴が確認されなかつたことから、調査区をまたぐ東西棟と想定される。柱掘方は、東西約0.8m×南北0.5~0.8mの隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは0.4m。柱痕跡は直径24cm前後の円形を呈する。主軸方位はE-3°-Nで、切り合ひ関係からどの遺構（SB9666を含む）よりも古い。

土師器（杯・皿・甌）・須恵器甌の小片が少量出土しており、いずれも、平安時代前期以前ものと考えられる。

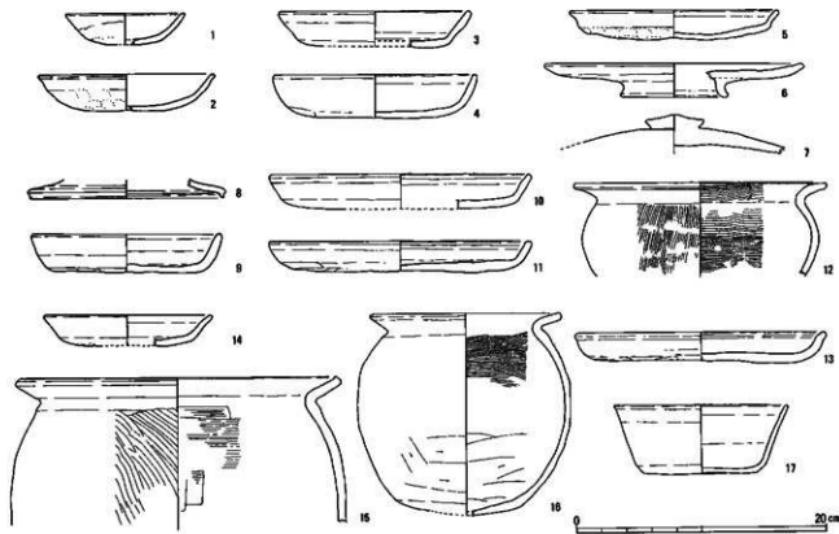
SB9665 調査区中央のやや南よりで検出された掘立柱建物。南北2間×東西2間以上の東西棟と推定される。主軸方位はN-89°-W。柱掘方は直径約40cmの略円形を呈する。柱痕跡は直径12~16cmで、柱間は1.8~2.0mである。

遺物としては、土師器（杯・甌）などの小破片が少量ある。いずれも、平安時代前期以前には遡らないと考えられるものである。

SB9666 調査区中央で検出された側柱の掘立柱建物。全ての柱穴を確認してはいないが、南北3間×東西2間の南北棟と考えて問題ないと思われる。主軸方位はN-1°-W。柱掘方は、一辺50~30cm程度の隅丸方形もしくは略円形を呈する。柱痕跡は直径14cmのものがあり、柱間は1.8~2.1mである。切り合ひ関係から、SB9664よりも新しく、SB9667よりも古いことが判っている。

土師器（杯・甌）のほかに、製塙土器と思われるものなどの小破片が少量出土している。いずれも、平安時代前期以前には遡らないと考えられるものである。

SB9667 SB9666とほぼ同じ位置（若干南側）で検出された側柱の掘立柱建物。柱穴の配置と切り合



第26図 第155-10次調査 出土遺物実測図(1:1)

(SK9656:1~7, SK9657:8~12, SK9658:13, SK9659:14·15, SK9660:16, SK9663:17)

い関係から、S B9666をほとんど同規模で建て替えたものと考えられる。主軸方位はN-0°。柱掘方は、一辺60~50cm程度の隅丸方形を呈するものが多い。柱痕跡は直径16~20cmで、柱間は1.8~2.2mである。切り合い関係から、S B9666よりも新しいことが判っている。

土器類（皿・壺）などの小破片が、少量出土している。平安時代前期のものも一部含まれるが、大半が中期頃のものとみられる。

Pit 現時点では、建物・柵の柱穴と捉えることのできないピット（小土坑）が多数検出された。古代のピットは調査区全体に広がりが認められるが、中世以降の遺物が出土したピットは調査区南半に分布が偏る傾向がある。

遺構出土遺物 土師器（杯・暗文土師器杯・皿・高杯・壺）・須恵器（杯・杯蓋・壺）などがコンテナケースに約1箱分あるが、大半は調査区の北辺付近から出土したものであり、本来は調査区北側の土坑群（SK9656~SK9660）に属するものと考えられる。（水橋公恵）

## 11 第155-11次調査（6A Q13）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉326

原因 浄化槽埋設

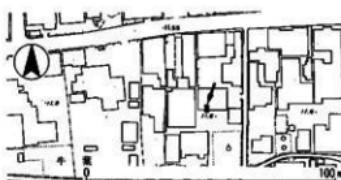
調査期間 平成19年10月23日

調査面積 5.4m<sup>2</sup>

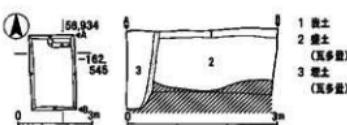
調査概況 調査地は、竹神社の南西約200m、旧参宮街道の南側に建つ住宅の敷地内で、史跡範囲の南部にあたる。標高約11.6mの現地表面から、表土・搅乱土を約1.0m掘り下げたところ、地山とみられる黄褐色土の上面に達した。調査地点の基本層序は、上から順に、表土・搅乱土・黄褐色土である。

遺構と遺物 遺構・遺物ともに認められなかった。

（水橋公恵）



第27図 第155-11次 調査区位置図 (1:2,000)



第28図 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

## 12 第155-12次調査（6A K6）

調査場所 多気郡明和町斎宮字古里3269-5

原因 浄化槽設置

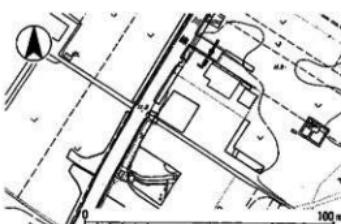
調査期間 平成20年1月10日

調査面積 5.7m<sup>2</sup>

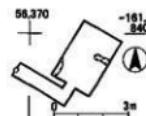
調査概況 調査地は、斎宮歴史博物館東側約100mにあり、県道南藤原・竹川線に面する住宅地である。

調査地点の基本層序は、上から順に、碎石・表土・明黄褐色粘質土（地山）で、地表面から30cmで地山に達する。

遺構と遺物 樹木に伴う搅乱坑を2箇所で確認したのみで、主たる遺構・遺物ともに認められなかった。（倉田直純）



第29図 第155-12次 調査区位置図 (1:2,000)



第30図 遺構平面図 (1:200)

### （参考文献）

斎宮歴史博物館2001『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ 内院地区的調査 本文編』

藤澤良祐1982『瀬戸古窯址群Ⅰ』『研究紀要Ⅰ』瀬戸市歴史民俗資料館

藤澤良祐1994『山茶塗研究の現状と課題』『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター

横田賛次郎・森田 勉1978『大宰府出土の輸入中国陶磁について』『九州歴史資料館研究論集』四

次数	遺構番号	遺構種別	調査時遺構名	地区	仮グリッド	時期	古宮編年	遺構の性格・遺物・その他			
155-1	S H9645	堅穴住居	土坑1	L5		飛鳥・奈良	I	本文参照。			
155-1	S D9646	溝	溝6	L5		中世?	-	土師器(杯・甕)が少量出土。			
155-1	S D9647	溝	溝2	L5		古代以降	-	土師器(杯・甕)が少量出土。			
155-1	S K9648	土坑	土坑8	L5		古代以降	-	土師器(杯・甕)が少量出土。			
155-1	S D9649	溝	溝9	L5		古代以降	-	土師器(甕)・須恵器(甕)が少量出土。			
155-2	S K9650	土坑	土坑2	M13	A1・B1	時期不明	-	土師器小片が少量出土。			
155-2	S K9651	土坑	土坑3	M13	B2	時期不明	-	土師器小片が少量出土。			
155-5	S D9652	溝	溝1	O13	2-3	13世紀半ば ~後半	-	本文参照。			
155-5	S D9653	溝	溝3	O13	2-3	中世?	-	土師器(鏡)小片が少量出土。			
155-5	S D9654	溝	溝2	O13	3-4	近世	-	須恵器・土師器(鏡)・常滑陶器(甕)・瀬戸美濃陶器(袋物・縁物小皿)小片がコンテナケース1/3箱出土。			
155-5	S D9655	溝	溝4	O13	4	近世	-	土師器(鏡)小片が少量出土。			
155-10	S K9656	土坑	土坑5	O12	1-2	平安時代前半頃	-	本文参照。			
155-10	S K9657	土坑	土坑6	O12	1-2	平安時代前半頃	-	本文参照。			
155-10	S K9658	土坑	土坑8	O12	2	平安時代前半頃	-	本文参照。			
155-10	S K9659	土坑	土坑9	O12	2	平安時代前半頃	-	本文参照。			
155-10	S K9660	土坑	土坑10	O12	2	平安時代前半頃	-	本文参照。			
155-10	S D9661	溝	溝4	O12	7	時期不明	-	長さ2.1m以上×幅1.1m、検出面からの深さ10~25cmで、断面は底の広い盾型を呈する東西溝。土師器(小皿・鏡)・木炭片が少量出土した。			
155-10	S D9662	溝	溝2・3	O12	8	中世末期以降	-	調査区内でL字に曲がる溝。最大幅は約1.0m、検出面からの最大の深さは25cmである。土師器鍋・須恵器甕・陶器が出土した。			
155-10	S K9663	土坑	土坑1	O12	8	古代	-	本文参照。			
155-8	S D9668	溝	溝1	K13	-	時期不明	-	遺物なし。			
155-3	-	-	T13	-	-	-	-	番号を付す遺構が検出されなかった。			
155-4	-	-	G12	-	-	-	-	番号を付す遺構が検出されなかった。			
155-6	-	-	Q13	-	-	-	-	番号を付す遺構が検出されなかった。			
155-9	-	-	V8	-	-	-	-	番号を付す遺構が検出されなかった。			
155-11	-	-	Q13	-	-	-	-	番号を付す遺構が検出されなかった。			
155-12	-	-	K6	-	-	-	-	番号を付す遺構が検出されなかった。			

第2表 第155-1・2・5・8・10次調査 検出遺構一覧

遺構番号	整理時仮番号	地区	仮Gr	Pit番号	ピット遺物	建物時期	規模(m) 東西間×南北間	柱間(m)	主軸	方位 (N基準)	備考
SB9664	掘立1	O12	3	p.1	土師器(甕・杯)	奈良末～ 平安前期	3(4.3)～×2(4.6)	東西2.45 南北2.3	東西? N-2°-W	重複関係にあるすべての遺構の中で最も古い。	
			3	p.1柱	土師器(杯・皿)						
			3	p.18	土師器片						
			5	p.1	土師器(甕・杯)						
			挖掘1	p.1	土師器(甕)						
			挖掘3	p.2	土師器(甕・鏡)						
SB9665	掘立2	O12	5	p.2	土師器(皿・鏡)	平安 前半頃	2(3.2)～×2(3.8)	東西1.8 南北2.0-1.8	東西? N-1°-E		
			6	p.7	土師器(皿・鏡)						
			6	p.9	土師器(杯)						
			6	p.9柱	土師器片						
SB9666	掘立3	O12	3	p.4	土師器(皿)	平安 前半頃	2(3.6)×3(6.3)	東西1.8-1.9 南北2.1	南北 N-1°-W	SB9667よりも古い。	
			3	p.5	土師器(皿・鏡) 製塗土器						
			3	p.12	土師器片						
			3	p.12柱	土師器片						
SB9667	掘立4	O12	3	p.6	土師器(甕・鏡)	平安 中期頃	2(3.6)×3(6.3)	東西1.8-2.0 南北2.1	南北 N-0°	SB9666よりも新しい。	
			3	p.9	土師器(皿・鏡)						
			3	p.13	土師器(皿・鏡)						
			4	p.3柱	土師器片						
			4	p.7	土師器(杯)						

第3表 第155-10次調査 掘立柱建物一覧

No.	調査の次回	出土遺物	基盤	比 基 (cm)	調査・技法の特徴	出土	集成	色 製	現存度	国 考	備考
1	155-1	GAL5 地下1.0m S K0045	土器器 皿	口径 34.8	内: ヨコハタナテマヘタ。外: ヨコナガヘナ: ナ メナヘタ。	泥 (~1mmの小石合) 量	泥	泥	泥	泥	001-01

No.	調査の次回	出土遺物	基盤	比 基 (cm)	調査・技法の特徴	出土	集成	色 製	現存度	国 考	備考
1	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052 No.1	土器器 皿	口径 2.4	内: ナデ 外: 手のひら印痕	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-02
2	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052 No.2	土器器 皿	口径 2.5	内: ナデ 外: 手のひら印痕	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-03
3	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052 No.3	土器器 皿	口径 2.4	内: ナデ 外: 手のひら印痕	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-04
4	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052 No.4	土器器 皿	口径 2.4	内: ナデ 外: 手のひら印痕	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-05
5	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052 No.5	土器器 皿	口径 11.8	内: ナデ 外: 手のひら印痕	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-06
6	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052 No.6	土器器 皿	口径 8.2	内: ナデ 外: 手のひら印痕	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-07
7	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052 No.13	土器器 皿	口径 11.6	内: ナデ 外: 手のひら印痕	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-08
8	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052	土器器 皿	口径 11.5	内: ナデ 外: 手のひら印痕	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-09
9	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052	土器器 皿	口径 11.9	内: ナデ 外: 手のひら印痕	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-10
10	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052	土器器 皿	口径 12.2	内: ナデ 外: 手のひら印痕	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-11
11	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052 No.6	土器器 皿	口径 16.5	内: ヨコナデ、内底: ハラケズリ 外: ヨコナデ、外底: ハラケズリ	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-12
12	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052	土器器 皿	口径 25.0	内: ヨコナデ、外: ハラケズリ 外: ヨコナデ、外底: ハラケズリ	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-13
13	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052	土器器 皿	口径 19.8	内: ヨコナデ、外: ヨコナデ、内底: ハラケズリ 外: ヨコナデ、外底: ハラケズリ	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-14
14	155-5	GAO12 沖縄1 S D 0052 No.11	土器器 皿	口径 21.7	内: ヨコナデ、外: 研磨により不明 外: ヨコナデ、外底: ハラケズリ	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-15
15	155-5	GAO12 沖縄1 P I + 1	土器器 皿	口径 22.6	内: 液面により手印(ナデ) 外: 研磨により手印	泥 量	泥	泥	泥	泥	002-16

No.	調査の次回	出土遺物	基盤	比 基 (cm)	調査・技法の特徴	出土	集成	色 製	現存度	国 考	備考
1	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0056	土器器 皿	口径 9.6	内: ヨコナデ 外: 手のひら印痕を残す	泥 量	泥	泥	泥	泥	005-02
2	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0056	土器器 皿	口径 14.2	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ	泥 量	泥	泥	泥	泥	005-03
3	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0056	土器器 皿	口径 15.4	内: ヨコナデ 外: 手のひら印痕を残す 調査不規	泥 量	泥	泥	泥	泥	005-04
4	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0056	土器器 皿	口径 16.0	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ、内底: ハラケズリ	泥 量	泥	泥	泥	泥	やや変形あり
5	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0056	土器器 皿	口径 8.1	内: ヨコナデ 外: ハラケズリ 内底: ハラケズリ、外底: ヨコナデ	泥 量	泥	泥	泥	泥	005-06
6	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0056	土器器 皿	口径 16.6	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ、内底: ハラケズリ	泥 量	泥	泥	泥	泥	005-07
7	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0056	土器器 皿	口径 4.6	内: ヨコナデ、外: ヨコナデ 外: ヨコナデ	泥 量	泥	泥	泥	泥	005-08
8	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0057	土器器 皿	口径 15.9	内: ヨコナデ	やや泥 量	泥	泥	泥	泥	006-02
9	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0057	土器器 皿	口径 15.2	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ 内底: ハラケズリ	泥 量	泥	泥	泥	泥	006-09
10	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0057	土器器 皿	口径 21.0	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ、内底: ハラケズリ?	泥 量	泥	泥	泥	泥	006-10
11	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0057	土器器 皿	口径 21.0	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ 内底: ハラケズリ	泥 量	泥	泥	泥	泥	006-11
12	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0057	土器器 皿	口径 20.0	内: ヨコナデ 外: ハラケズリ	やや泥 量	泥	泥	泥	泥	006-01
13	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0058	土器器 皿	口径 19.9	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ 内底: ハラケズリ	泥 量	泥	泥	泥	泥	006-03
14	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0058	土器器 皿	口径 13.5	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ	泥 量	泥	泥	泥	泥	006-04
15	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0058	土器器 皿	口径 26.0	内: ヨコナデ、外: ヨコナデ 内底: ハラケズリ	泥 量	泥	泥	泥	泥	006-05
16	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0058	土器器 皿	口径 15.4	内: ヨコナデ、内底: ヨコナデ 外: ハラケズリ	泥 量	泥	泥	泥	泥	006-06
17	155-10	GAO12 沖縄1 S K 0058	土器器 皿	口径 13.7	内: ヨコナデ 外: ヨコナデ 内底: ヨコナデ	泥 量	泥	泥	泥	泥	006-01

第4表 第155-1・5・10次調査 出土遺物観察表

調査次回	地区	Gr	遺構・層名	縦軸破片数	備考
155-5	GAO13	2	Pit 1 上層	1	検出類
155	6AP12	-	包含層	1	小箱、発音3020-11倉庫建築(17号)財第4の1241号)立会い

第5表 第155次調査 特殊遺物一覧

## 付編 史跡現状変更等許可申請

平成19年度に提出された史跡現状変更等許可申請は、50件である。発掘調査を行ったのは、前年度申請分も含め16件で、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が4件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが12件である。なお、本書に掲載している第155-3・6・7次調査は前年度申請分である。

50件の申請の内37件は、宅地敷地内における個人住宅の建設など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものである。なお、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館並びに明和町斎宮跡課職員の立会いのもとで実施している。

19年度の申請の内容は、一覧表（第6表）のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

### （A）個人等による申請

個人等による申請は、住宅等の新築及び改築、解体に伴うもので29件あった。うち個人住宅建築、浄化槽設置など発掘調査が必要とされた9件（第155-1・2・4・5・8～12次調査）について調査を行なった。

他の20件については、個人住宅の改築や除去、工作物の撤去などで土地利用区分の第四種保存地区にあたり、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

### （B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は14件の提出があった。その内容は、道路修繕等が5件、下水道管の埋設関係が3件、学校関係が1件、電気・電話関係が5件があり、工事立会いで着工している。

### （C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

この申請は3件あり、史跡管理用機械の車庫や樹木の植栽である。

### （D）発掘調査のための申請

この申請は4件（第151次・第152次・第153次・第156次調査）あり、三重県教育委員会が主体となり斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査で、3,596m<sup>2</sup>が調査された。これらの内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されている。

（中野敦夫）

申請地	種別	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
1 斎宮字牛家3258-1	A 個人		住宅建築	H19.4.4	H19.5.10	157.54m <sup>2</sup>	3	第155-1次調査
2 斎宮字木薺山95-10	A 個人		住宅建築	H19.4.10	H19.5.10	80.79m <sup>2</sup>	3	第155-2次調査
3 斎宮字鶴治山2351-1	A 個人		駐車場造成	H19.4.16	H19.6.7	49m <sup>2</sup>	3	
4 斎宮字下瀬2810-2	C (財)国史跡斎宮跡保存協会		車庫増築	H19.4.17	H19.5.18	18.5m <sup>2</sup>	1	
5 斎宮字奈瀬2840-1	A 個人		建物解体	H19.4.17	H19.5.10	76.03m <sup>2</sup>	4	1種
6 竹川字中塙内460-2	A 個人		浄化槽設置	H19.4.17	H19.5.10		1基	4 第155-4次調査
7 斎宮字牛葉3021、牛葉3021-1	A 個人		住宅建築	H19.4.19	H19.6.7	104.16m <sup>2</sup>	4	第155-5次調査
8 斎宮字都原2797番4茶	D 三重県教育委員会		免認(計画)調査	H19.4.27	H19.6.7	2,625m <sup>2</sup>	1	第152次調査
9 斎宮字広瀬3385-2	B 明和町教育委員会(学校教育課)		安全柵改修	H19.4.24	H19.5.9	L=46.1m	4	
10 斎宮字内山、上園地内	B 明和町(建設課)		道路修繕	H19.4.25	H19.4.27	L= 106.4m	1	
11 斎宮字鶴井3149-2	A 個人		フェンス等設置	H19.4.27	H19.5.15	L=16m	4	
12 竹川字南瀬258-2	B 中部電力(株)松阪営業所		電柱建設	H19.5.2	H19.5.15	1本	4	
13 斎宮字鶴井3174-1	A 個人		住宅改築	H19.5.9	H19.6.15	11.7m <sup>2</sup>	4	
14 斎宮字東前沖2476	A 個人		住宅増築	H19.5.16	H19.6.15	9.9m <sup>2</sup>	4	
15 斎宮字鶴治山2413-1地先	B 明和町(上下水道課)		仮設上下水道管埋設	H19.5.17	H19.6.15	50m	1	
16 斎宮字無應ほか	B 明和町(建設課)		道路修繕等	H19.5.25	H19.5.31	670m	1~3	
17 斎宮字篠井3177-4、3176-1、 糸瀬2891-4	A 個人		住宅撤去	H19.6.11	H19.7.20	3棟	3・4	
18 斎宮地内	B 明和町(上下水道課)		下水道管埋設	H19.6.13	H19.7.20	320m	4	
19 斎宮字鶴治山2351-1	B 西日本電信電話(株)三重支店		電話柱移設	H19.6.15	H19.6.21	1本	2・4	
20 斎宮字牛葉326	A 個人		浄化槽設置	H19.6.15	H19.7.20		1基	4 第155-11次調査
21 斎宮字櫛原2787-1他13棟	D 三重県教育委員会		免認(計画)調査	H19.6.21	H19.7.20	640m <sup>2</sup>	1	第153次調査
22 斎宮字広瀬3368	D 三重県教育委員会		免認(計画)調査	H19.6.21	H19.7.20	100m <sup>2</sup>	1	第154次調査
23 竹川字東裏262	A 個人		浄化槽設置	H19.7.2	H19.8.29	1基	4	第155-8次調査
24 斎宮字東加盛2435-4	A 個人		ブロック塀等設置	H19.7.2	H19.7.18	L=5.4m	4	
25 斎宮字鶴治山2413、2354-1	B 明和町(上下水道課)		仮設プレハブ設置	H19.7.13	H19.8.29	42m <sup>2</sup>	1・2	
26 斎宮字木薺山95-10	A 個人		ブロック塀等設置	H19.7.20	H19.8.20	50.1m	3	
27 斎宮字内山3023	A 個人		駐車場造成	H19.7.24	H19.8.29	364.61m <sup>2</sup>	4	第155-10次調査
28 斎宮字鶴治山2435-8	A 個人		プレハブ設置	H19.8.6	H19.9.5	19.55m <sup>2</sup>	4	第155-9次調査
29 竹川字東裏503	B 西日本電信電話(株)公衆電話BOXの撤去		H19.9.10	H19.9.18		1基	3	
30 斎宮地内	B 明和町(上下水道課)		道路修繕	H19.10.16	H19.10.22	710m	1~3	
31 斎宮字木薺山地内	B 中部電力(株)松阪営業所		電柱接地線設置	H19.11.13	H19.11.26	1本	3	
32 斎宮字御前2972-1、2973-1	A 個人		倉庫除去	H19.11.14	H19.12.7	219.24m <sup>2</sup>	4	
33 斎宮字東瀬2885-2	A 個人		宅地造成	H19.11.26	H20.1.10	145.2m <sup>2</sup>	3	
34 斎宮字西加盛2572	D 三重県教育委員会		免認(計画)調査	H19.11.26	H19.12.20	70m <sup>2</sup>	1	第156次調査
35 斎宮字牛葉3009-1	A 個人		住宅改築	H19.11.29	H20.1.10	93m <sup>2</sup>	4	
36 斎宮字古里3269-5	A 個人		浄化槽設置	H19.11.30	H19.12.20	1基	4	第155-12次調査
37 斎宮字西加盛2455-1	A 中町自治会		ネットフェンス除去	H19.11.30	H19.11.30	127m	1	
38 斎宮字東加盛2435-2	A 個人		ネットフェンス撤去	H19.11.30	H19.11.30	120.7m	2	
39 竹川字花園865	A 個人		ブロック塀設置	H19.12.7	H19.12.20	80m	3	
40 斎宮字奈瀬2840-1	A 個人		倉庫撤去	H19.12.10	H20.1.31	50m <sup>2</sup>	4	
41 竹川字東裏566-8	A 個人		住宅耐震補強	H19.12.18	H20.1.31	46m <sup>2</sup>	4	
42 斎宮字牛葉地内	B 中部電力(株)松阪営業所		電柱接地線設置	H19.12.20	H19.12.27	1箇所	3・4	
43 竹川字古里503	C 斎宮御料銀袋贈金		梅の木植栽	H19.12.21	H20.1.31	5本	1	
44 斎宮(中町)地内	B 明和町(建設課)		道路修繕	H19.12.27	H20.1.7	93.1m	1	
45 斎宮字下瀬2928-1	A 個人		住宅撤去	H19.12.28	H20.1.31	70m <sup>2</sup>	4	
46 斎宮字東加盛2388-1	A 個人		樹木撤去	H20.1.17	H20.2.15	65m <sup>2</sup>	2	
47 竹川字東裏363	A 個人		フェンス改修	H20.2.14	H20.3.6	123.7m <sup>2</sup>	4	
48 斎宮字内山地内	B 明和町(建設課)		道路修繕	H20.3.17	H20.3.27	48m <sup>2</sup>	3	
49 斎宮字東加盛2369-7	A 個人		花壇除去	H20.3.21	H20.3.27	7m <sup>2</sup>	4	
50 斎宮字下瀬2813	C 明和町(斎宮跡)		プレハブ倉庫設置	H20.3.27	H20.5.1	50.5m <sup>2</sup>	1	

第6表 平成19年度 現状変更等許可申請一覧表

# **写 真 図 版**



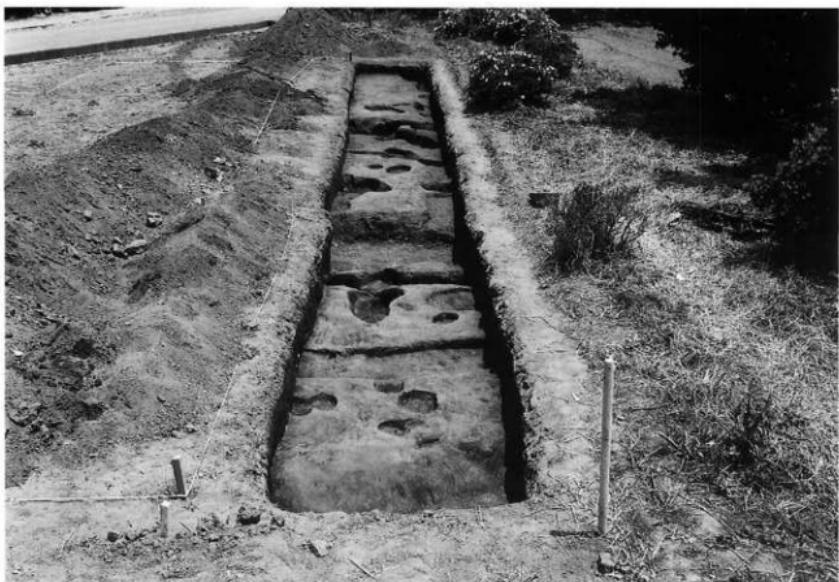


第155-1次調査 Aトレンチ全景（南から）



第155-1次調査 Aトレンチ S H9645（南から）

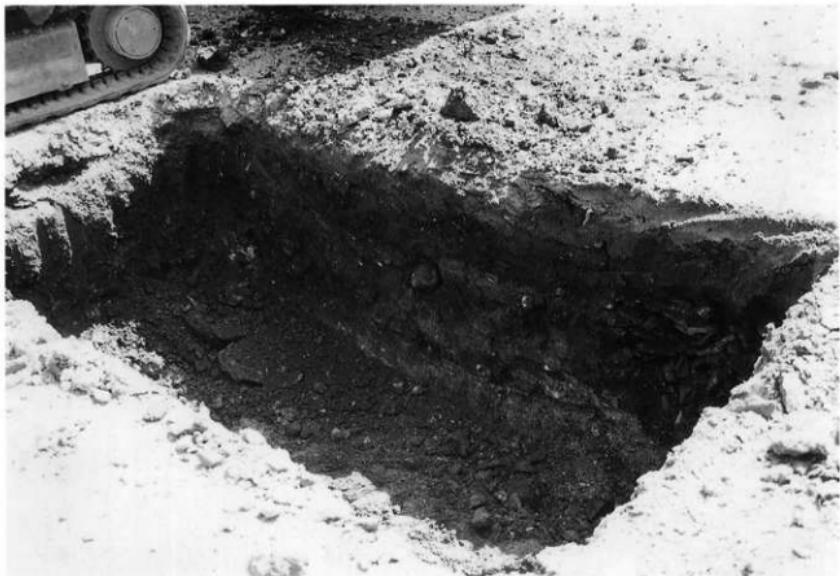
写真図版2



第155-1次調査 Bトレンチ全景（西から）



第155-2次調査 全景（南から）



第155-3次調査 全景（南西から）



第155-4次調査 全景（南西から）

写真図版4



第155-5次調査 全景（北から）



第155-5次調査 S D9652遺物出土状況（南から）



第155-6次調査 全景（北西から）



第155-8次調査 全景（北西から）

写真図版 6



第155-10次調査 全景（南から）



第155-10次調査 土坑群 SK9656~9660（北から）



第155-10次調査 堀立柱建物群 S B 9664・9666・9667（南から）



第155-10次調査 S B 9664（南西から）

写真図版8



第155-10次調査 SK9657 (南西から)



第155-11次調査 全景 (北西から)

## 報 告 書 抄 錄

---

史跡 斎宮跡  
平成19年度  
**現状変更緊急発掘調査報告**

平成21(2009)年1月20日

編 集 斎宮歴史博物館  
明 和 町  
発 行 明 和 町  
印 刷 光出版印刷株式会社

---

